

## 令和5年度 学校総合評価

## 6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校の生徒は、品行方正で親しみやすく、爽やかな態度で真摯かつ素直な姿勢を大切にしながら、自己の将来に向けて積極的に挑戦し、更なる自信と意欲を高めるべく重要課題に取り組んだ。

## (1) 学習活動

今年度も、生徒の自発的な学びを促進する学習環境の構築を目指し、「主体的・対話的で深い学び」を追求した授業を展開した。全教科にわたる互見授業やICT機器の活用を通じ、普段から学校全体での情報交換や教科別検討会を開いて、授業力の向上を目指した。生徒のアクティブラーニングに焦点を当て、授業アンケートから得たフィードバックを元に、昨年比で数値が低下した項目に対して教員が改善に取り組んでいる。今年度も多くの互見授業が実施され、その成果として学びの深化が確認された。今後は、アンケート結果を真摯に受け止め、教員側のアプローチの改善策にも取り組みたい。

## (2) 学校生活

今年度も、保護者の協力を得ながら規範意識の高揚と規律正しい学校生活の確立に努めた。携帯電話の校則違反に取り組む中、生徒会や校風委員会が主体的に「学校のネットルールづくり」に参加し、統一HRを通じて学校ネットルールを全校生徒で検討した。携帯電話の校内利用に関するネットルールが制定され、校風委員による高啼ウィークでの啓発や警察講師による講座が行われ、指導方法も工夫しながら、反省文や面談、奉仕活動を通じて違反者に深い反省・理解を促してきた。結果としては、残念ながら帰宅後の携帯電話の使用時間の割合、ルール違反件数についてともに目標に達しなかった。今後の課題として、家庭でのルール作りや保護者との連携もより重視し、生徒がSNSやインターネットを賢く利用するための指導を強化する必要がある。

## (3) 進路支援

個々の進路意識向上を促すため、学年との連携を強化し、進路指導委員会や学部・学科研究会、合格教室などを活用して、充実した進路指導を行った。進路意識向上と学習意欲向上を促すために学年との連携を強化し、学校推薦型選抜・総合型選抜の指導方法を検討し、志望理由書や小論文、面接の指導の充実を図った。

進路希望調査の結果は、第一志望の校種に合格した生徒は89.6%、国公立大学学校推薦型選抜・総合型選抜の結果は合格率61.9%となった。これらの成果を踏まえ、今後は、共通テストにおいて堅実な学力を確立させるとともに、早い段階から国公立大学の学校推薦型選抜の合格率向上を図るべく、学力向上のための共通テスト対策や早い段階からの進路指導の強化を図っていききたい。

## (4) 特別活動

ボランティア活動への参加者が増加し、また新聞編集委員を中心に学校行事の積極的なホームページ発信が行われた。各学校行事における生徒の満足度は高く、ボランティアを通じて人との関わり方を学び、役に立っている充実感が生まれているようである。今後も生徒会を中心に生徒の意見を取り入れ、新たな形のイベントを企画させていきたい。ボランティア活動は来年度も増加が見込まれ、生徒へのタブレットを活用した情報発信やホームページを通じて学校生活や部活動のPRを強化し、学校の魅力を広めていくことも重要な点である。次年度も学校と地域の交流を促進する行事を計画・実施し、地域に根ざした、より期待されるような活気ある学校作りを目指したい。

## (5) その他

福祉コースでは、「福祉マインドを育て、地域や社会に貢献できる人材の育成を図る。」という目標に焦点を当て、「福祉コースの実践を取り入れた進路選択」に重点をおいた課題に取り組んだ。特に中学生に対して本校福祉コースの活動や理念を広く知ってもらい、福祉に関する意識の高い生徒の入学希望者およびコース選択者数の増加を目指した。今後も、専門科目での講習や実践体験の提供、学校説明会や中学校訪問でのプレゼンテーションとリーフレット活用、さらなるHPの更新を通じて、進学者数の増加を実現し、来年度に向けても福祉に関する職業や進路に興味を喚起するために、校内外への発信を一層強化する等様々な施策を進めたい。

## 7 次年度へ向けての課題と方策

今年度は、コロナ禍前の生活に戻りつつある中で、「主体的・対話的な学び」や「規範意識の向上と学校生活の規律確立」、「進路実現の促進」に焦点を当て各課題に取り組んだ。生徒たちは素直で優しい心と強い意志を持ち、地域で高い評価を得ているが、教育的視点から見れば、まだまだ自己確信や学びたい気持ち、適応力には伸びしろがある。

将来を見据え、進路実現に向けて、学力向上と本番で実力が発揮できるような学習環境整備が必要であり、生徒の「受験力」の向上には、「モチベーション」や「基礎学力」などの力を引き出して伸ばす指導が不可欠である。今後は「精神的な強さ」や「困難に対する適応力」も求められることになる。新課程の成績評価や事後分析についても深く検討し、来年度も本校の継続課題として、今年度の重点課題に取り組んで成果を上げるため、粘り強く取り組んでいきたい。

今年度の重点課題（学校アクションプラン）

		令和5年度 アクションプラン	教務部																																																																																																			
重点項目	学習活動																																																																																																					
重点課題	「主体的・対話的で、深い学び」を実現する授業の推進、改善。																																																																																																					
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>「主体的・対話的で、深い学び」を目指した授業が実践され、生徒にも少しずつ浸透してきている。今後は、さらに生徒が協働して学ぶことができる環境作りを目指し、より能動的・意欲的に取り組もうとする姿勢を育てること（授業の質）が課題である。</li> </ul>																																																																																																					
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>「主体的・対話的で、深い学びに関するアンケート項目の質問」において、肯定的回答をすべて80%以上にする。</li> </ul>																																																																																																					
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教科で公開授業を行い、担当する教科の授業と他教科の授業を見学する機会を設ける。見学者からの感想やアドバイスと教科部会での話し合いを通して情報交換を行い、学校全体の授業改善に努める。</li> <li>「授業・学習に関するアンケート」の「主体的・対話的で深い学び」に関する生徒の回答から、授業分析や改善を行い、授業の質の向上に努める。</li> <li>タブレットを効果的に使用した授業の実現に積極的に取り組み、ICT教育の推進に努める。</li> <li>コロナ禍でできなかったグループ(ペア)活動にも積極的に取り組み、より対話的で深い学びを目指す。</li> </ul>																																																																																																					
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の互見授業は総数で52回実施した。授業を見学して授業改善に努めることが定着してきていると思われる。</li> </ul> <p>【アクティブラーニングに関するアンケート項目・集計】 肯定的回答比率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>R5</th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.授業では毎回生徒自身が考えたり、工夫したり、意見・考えを発表する機会がある。</td> <td>91.0</td> <td>92.2</td> <td>94.7</td> <td>94.0</td> <td>95.5</td> <td>94.6</td> <td>89.6</td> <td>89.9</td> <td>91.3</td> <td>87.0</td> </tr> <tr> <td>2.他の生徒と意見・考えを話し合ったり、知識や技術を身に付けるために協力して練習したり、質問を出し合ったりする機会がある。</td> <td>85.3</td> <td>90.3</td> <td>93.9</td> <td>95.5</td> <td>91.7</td> <td>94.6</td> <td>82.2</td> <td>77.9</td> <td>91.7</td> <td>81.2</td> </tr> <tr> <td>3.先生からの質問や演習、小テストや課題、ペアワークやグループワーク等から、積極的に学び・取り組む姿勢が身に付く授業内容である。</td> <td>88.9</td> <td>92.4</td> <td>94.5</td> <td>96.0</td> <td>91.7</td> <td>97.3</td> <td>88.5</td> <td>87.0</td> <td>93.1</td> <td>87.0</td> </tr> <tr> <td>4.困っている生徒に教えたことがある。</td> <td>67.9</td> <td>73.7</td> <td>74.4</td> <td>70.8</td> <td>75.7</td> <td>82.0</td> <td>60.4</td> <td>57.3</td> <td>61.5</td> <td>66.7</td> </tr> <tr> <td>5.分からないところやできないところを、他の先生や生徒に質問(相談)する。</td> <td>77.7</td> <td>83.1</td> <td>85.4</td> <td>83.7</td> <td>85.4</td> <td>90.1</td> <td>70.6</td> <td>64.8</td> <td>77.0</td> <td>77.6</td> </tr> <tr> <td>6.グループ(ペア)活動では、相手も自分も身に付くように積極的なコミュニケーションをとる。</td> <td>84.3</td> <td>87.2</td> <td>91.5</td> <td>91.0</td> <td>92.7</td> <td>90.1</td> <td>81.8</td> <td>78.9</td> <td>87.2</td> <td>82.8</td> </tr> <tr> <td>7.グループ(ペア)活動では、メンバーと協力しながら積極的に取り組み、成果をあげている。</td> <td>83.4</td> <td>86.7</td> <td>91.5</td> <td>90.9</td> <td>92.4</td> <td>91.0</td> <td>78.8</td> <td>74.3</td> <td>84.4</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>8.授業では、意欲的に発言したり、積極的に活動や練習に参加している。</td> <td>57.8</td> <td>83.3</td> <td>86.3</td> <td>85.5</td> <td>87.2</td> <td>86.5</td> <td>71.4</td> <td>69.0</td> <td>71.1</td> <td>77.5</td> </tr> </tbody> </table>				R2	R3	R4	1年	2年	3年	R5	1年	2年	3年	1.授業では毎回生徒自身が考えたり、工夫したり、意見・考えを発表する機会がある。	91.0	92.2	94.7	94.0	95.5	94.6	89.6	89.9	91.3	87.0	2.他の生徒と意見・考えを話し合ったり、知識や技術を身に付けるために協力して練習したり、質問を出し合ったりする機会がある。	85.3	90.3	93.9	95.5	91.7	94.6	82.2	77.9	91.7	81.2	3.先生からの質問や演習、小テストや課題、ペアワークやグループワーク等から、積極的に学び・取り組む姿勢が身に付く授業内容である。	88.9	92.4	94.5	96.0	91.7	97.3	88.5	87.0	93.1	87.0	4.困っている生徒に教えたことがある。	67.9	73.7	74.4	70.8	75.7	82.0	60.4	57.3	61.5	66.7	5.分からないところやできないところを、他の先生や生徒に質問(相談)する。	77.7	83.1	85.4	83.7	85.4	90.1	70.6	64.8	77.0	77.6	6.グループ(ペア)活動では、相手も自分も身に付くように積極的なコミュニケーションをとる。	84.3	87.2	91.5	91.0	92.7	90.1	81.8	78.9	87.2	82.8	7.グループ(ペア)活動では、メンバーと協力しながら積極的に取り組み、成果をあげている。	83.4	86.7	91.5	90.9	92.4	91.0	78.8	74.3	84.4	83.3	8.授業では、意欲的に発言したり、積極的に活動や練習に参加している。	57.8	83.3	86.3	85.5	87.2	86.5	71.4	69.0	71.1	77.5
	R2	R3	R4	1年	2年	3年	R5	1年	2年	3年																																																																																												
1.授業では毎回生徒自身が考えたり、工夫したり、意見・考えを発表する機会がある。	91.0	92.2	94.7	94.0	95.5	94.6	89.6	89.9	91.3	87.0																																																																																												
2.他の生徒と意見・考えを話し合ったり、知識や技術を身に付けるために協力して練習したり、質問を出し合ったりする機会がある。	85.3	90.3	93.9	95.5	91.7	94.6	82.2	77.9	91.7	81.2																																																																																												
3.先生からの質問や演習、小テストや課題、ペアワークやグループワーク等から、積極的に学び・取り組む姿勢が身に付く授業内容である。	88.9	92.4	94.5	96.0	91.7	97.3	88.5	87.0	93.1	87.0																																																																																												
4.困っている生徒に教えたことがある。	67.9	73.7	74.4	70.8	75.7	82.0	60.4	57.3	61.5	66.7																																																																																												
5.分からないところやできないところを、他の先生や生徒に質問(相談)する。	77.7	83.1	85.4	83.7	85.4	90.1	70.6	64.8	77.0	77.6																																																																																												
6.グループ(ペア)活動では、相手も自分も身に付くように積極的なコミュニケーションをとる。	84.3	87.2	91.5	91.0	92.7	90.1	81.8	78.9	87.2	82.8																																																																																												
7.グループ(ペア)活動では、メンバーと協力しながら積極的に取り組み、成果をあげている。	83.4	86.7	91.5	90.9	92.4	91.0	78.8	74.3	84.4	83.3																																																																																												
8.授業では、意欲的に発言したり、積極的に活動や練習に参加している。	57.8	83.3	86.3	85.5	87.2	86.5	71.4	69.0	71.1	77.5																																																																																												
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケートを参考にしながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて改善に取り組んでいる。</li> <li>タブレットなどのICT機器を利用した授業改善に努めている。</li> </ul>																																																																																																					
評 価	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての項目でR3・4よりも全体集計の肯定的回答比率の数値が下がっており、昨年高かった現2・3年生の数値も昨年より下がっている。</li> </ul>																																																																																																				
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケートの結果を考察する意義は非常に大きい。コロナ禍の影響も考慮すべきだが、対面対話の機会の減少が数値の低下に影響した可能性もある。しかしそれに対し、学習への姿勢を向上させるための指導の工夫が重要である。生徒たちの学習意欲を高めることは、彼らの人生全体への意欲、夢、希望にも繋がると信じているからである。これまでの取り組みに感謝し、今後もさらなる工夫を期待している。</li> </ul>																																																																																																					
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの結果を真摯に受け止め、まずはアンケート項目1～3の教員側のアプローチから改善し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、さらなる取り組みを目指したい。</li> </ul>																																																																																																					

(評価の基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和5年度 アクションプラン		生徒指導部
重点項目	学校生活	
重点課題	規範意識の高揚と規律正しい学校生活の確立を目指す。 ～携帯電話・スマートフォン使用に関する生徒の主体的な取り組み～	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での携帯電話（スマートフォン）の使用時間が長く、昨年度のアンケート結果から家庭で3時間以上の使用が全校生徒の約45%となっている。携帯電話（スマートフォン）の長時間使用で生活が乱れ、体調を崩す生徒が見受けられる。</li> <li>・携帯電話（スマートフォン）の校内ルール違反件数が、令和2年度は34件、令和3年度は25件、令和4年度は19件であった。本校では、「携帯電話持ち込み許可願」を提出し、電源を切って鞆に入れる約束で携帯電話の持ち込みを許可し保護者と緊急に連絡を取りたい場合のみ、指定場所での使用を認めている。しかし昼休み、放課後などに教室、部室などで使用している生徒がいる。また、毎年1年生の違反件数が多い。</li> </ul>	
達成目標	① 帰宅後（平日）の携帯電話等（スマートフォン）の1日の使用時間が3時間以内（学習以外）の生徒の割合70%以上とする。	② 携帯電話（スマートフォン）の校則違反ののべ件数を15件以下にする。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統一HRを利用して生徒に学校ネットルールを考えさせ、生徒が自主的・主体的に携帯電話（スマートフォン）を使用する態度を身につけさせる。</li> <li>・学期末にアンケートを実施し、学校ネットルールが守られているか、使用状況・危険性の認識を確認し、次の指導に反映させる。</li> <li>・各学年、生徒指導部の職員で昼休みに教室・学校内を巡視し、生徒の様子を確認し指導する。</li> <li>・全校集会や学年集会で携帯電話の過度な使用は生活や体調への支障をきたすことや、SNSの危険性について話し、規範意識を高める指導をする。また、1年生には「携帯電話ネットトラブル防止講話」を実施する。</li> <li>・校風委員・生徒会が中心となって、注意喚起を行う。</li> </ul>	
達成度	① 帰宅後（平日）の携帯電話等（スマートフォン）の1日の使用時間 3時間以内・・・63.8%（2学期終業式アンケート） ② ルール違反件数は1学年8件、2学年6件、3学年3件、合計17件	
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統一HRで携帯電話の使用について話し合い、学校ネットルール（八尾高校携帯電話・スマートフォン使用3原則）を決定した。</li> <li>・高啼ウィークで校風委員が携帯電話（スマートフォン）の本校生徒の現状などを発表し、注意喚起を行った。</li> <li>・1学年の生徒を対象に富山県警察本部から講師を招いて「携帯電話・ネットトラブル防止講座」を実施した。</li> <li>・携帯電話校内ルール違反者には、反省文・先生との面談・奉仕活動など、違反を繰り返す毎に反省を深める指導を行っている。生徒自ら行動を振り返り、自己反省できるような指導を心がけている。また、指導について保護者に説明し、協力を得ている。</li> </ul>	
評 価	C	① ②とも達成できなかったため
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校則の遵守から、規則やルールを守ることの重要性を学ぶことを期待したい。さらに、スマホ依存に関する認識を高め、自己コントロール力の育成に努めることで、規範意識の向上にも繋がるよう指導をお願いしたい。</li> </ul>	
次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在私達は、SNSやインターネットなどの恩恵を大きく受けている。一方、事件の被害者・加害者となる若者も増えている。ネットとうまく付き合う方法を身につけさせるのは学校だけではうまくいかない。各家庭でのルール作りなどを率先的に行ってもらったり、保護者・関連機関等との連携を図ったりして生徒がSNS、インターネットと賢く付き合う方策を身に付けさせ、自己指導能力を高めていく指導が課題である。</li> </ul>	

（評価の基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和5年度 アクションプラン		進路指導部																																											
重点項目	進路支援																																												
重点課題	より高いレベルでの進路実現の促進																																												
現 状	<p>(1) 昨年度卒業生の9月進路希望調査時の第一志望と実際の進路決定状況は下の表の通りで、校種別の第一志望達成は146名中121名の約83%であった。一昨年に比べ、9月志望時に四年制大学を志望する生徒の割合が増えたが、最終的に短大や専門学校に進学する生徒が増加した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>9月志望</th> <th>大学進学</th> <th>短大進学</th> <th>専門進学</th> <th>その他</th> <th>就職</th> <th>志望計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学</td> <td>93名</td> <td>9名</td> <td>8名</td> <td>4名</td> <td>0名</td> <td>114名</td> </tr> <tr> <td>短大</td> <td>1名</td> <td>10名</td> <td>1名</td> <td>0名</td> <td>0名</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td>専門</td> <td>0名</td> <td>1名</td> <td>17名</td> <td>0名</td> <td>0名</td> <td>18名</td> </tr> <tr> <td>就職</td> <td>0名</td> <td>0名</td> <td>1名</td> <td>0名</td> <td>1名</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>進学先計</td> <td>94名</td> <td>20名</td> <td>27名</td> <td>4名</td> <td>1名</td> <td>146名</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 昨年度卒業生における国公立大学学校推薦型選抜の結果は、出願12名、合格10名、合格率83%であり、ここ数年で最も高い割合であった。大学入試における学校推薦型選抜の割合は増加傾向にある。また、国公立大学の総合型選抜についても研究していく必要があると考える。</p>			9月志望	大学進学	短大進学	専門進学	その他	就職	志望計	大学	93名	9名	8名	4名	0名	114名	短大	1名	10名	1名	0名	0名	12名	専門	0名	1名	17名	0名	0名	18名	就職	0名	0名	1名	0名	1名	2名	進学先計	94名	20名	27名	4名	1名	146名
	9月志望	大学進学	短大進学	専門進学	その他	就職	志望計																																						
	大学	93名	9名	8名	4名	0名	114名																																						
	短大	1名	10名	1名	0名	0名	12名																																						
	専門	0名	1名	17名	0名	0名	18名																																						
	就職	0名	0名	1名	0名	1名	2名																																						
	進学先計	94名	20名	27名	4名	1名	146名																																						
達成目標	<p>(1) 9月実施の進路希望調査における校種別の第一志望において、80%以上の生徒が目標を達成すること。(高い目標を掲げた生徒への進路支援)</p> <p>(2) 国公立大学の学校推薦型選抜・総合型選抜の合格率75%以上を目指す。</p>																																												
方 策	<p>①学年との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路講話や学年集会などを通して、進路意識の高揚や学習意欲の向上を図る。</li> <li>3学年の進学指導方針の立案・計画・実施の支援を積極的に行う。</li> </ul> <p>②進路指導委員会の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導の問題点を把握し、とるべき方策を学校全体の共通理解として提示し、問題解決を図る。必要に応じて他の分掌とも連携する。</li> </ul> <p>③学校推薦型選抜指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学年外の教員も含め、全教職員協力のもとで指導に当たる。</li> <li>使用テキストや指導方法を記録・保存し、有効な指導法を次年度の指導に生かす。</li> </ul>																																												
達成度	<p>(1) 本年9月の進路希望調査の状況は大学118名、短大14名、専門18名、就職1名であった。3月上旬時点の進路決定者は、大学90名、短大22名、専門22名の計134名(全体の88.7%)であり、第一志望の校種に合格した生徒は89.6%であった。</p> <p>(2) 国公立大学学校推薦型選抜・総合型選抜の結果は、出願21名、合格13名、合格率61.9%であった。(3月上旬時点)</p>																																												
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路意識の高揚や学習意欲の向上を図るため、学年と連携して取り組んだ。</li> <li>学校推薦型選抜・総合型選抜の指導方法について検討し、志望理由書、小論文や面接等の指導を行った。</li> </ul>																																												
評 価	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月上旬時点の進路決定者については、目標をクリアした。</li> <li>国公立学校推薦の結果が目標を下回った。</li> </ul>																																											
学校評議員の意見	<p>・第一志望の校種への合格率89.6%は取り組んだ成果の表れであり高く評価される。合格教室をはじめ、普段から様々な機会を通じて学習時間の確保と学習習慣を身につけさせるとともに、重点課題の検証と見直しをしながら、次年度も継続して指導してほしい。</p>																																												
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学入学共通テストでしっかりと得点できる確かな学力をつける。</li> <li>学校推薦型選抜・総合型選抜の研究を早めに行い、出願前の指導を充実させる。</li> </ul>																																												

(評価の基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

	令和5年度 アクションプラン	特活部
重点項目	学校行事や地域活動への積極的な参加を促す	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度より、感染防止への十分な配慮を継続しつつも、学校行事や地域活動が以前のように行われるようになって期待している。そこで、コロナ禍以前の活動をそのまま行うだけでなく、ICT機器を活用したりするなどの新しい形で、学校行事や生徒会活動、地域との交流をより活発に行う。そして、様々な活動を通して、充実した高校生活を送らせるとともに、人間的な成長を図る。</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年は、高啼祭を一般公開したり、百周年の記念行事を行ったりと大きな行事が無事行われた。しかし、体育大会や球技大会など学校行事は、活動の制約や縮小があるなかで行われた。学校行事は生徒にとって、充実した高校生活を送り、学校生活にメリハリと活気をもたらす良い機会となっている。その中でも、高啼祭のクラス動画では、ICT機器を活用した生徒の創造活動の可能性を感じることができた。</li> <li>また、ボランティア活動も徐々に増えており、昨年は、12のボランティア活動に、延べ127名が参加した。福祉コースでは、昨年も社会福祉施設とリモートでの交流を数回実施し、ICT機器を利用した活動の幅を広げている。今後はさらに、地域活動への参加の機会が増えると考えられる。</li> </ul>	
達成目標	積極的に学校行事や地域交流を行い、その活動の生徒満足度を85%以上にする。	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの行事ややり方にとらわれることなく、新たな試みを取り入れて、今の時代にあった活動をしていく。</li> <li>ICT機器を活用し、地域の社会福祉施設などとの交流や生徒の創造活動が活発に行うことができる環境づくりに取り組む。</li> <li>外部団体からのボランティア依頼を各クラスに発信し、多くの情報を生徒に提供する。</li> </ul>	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校行事の生徒の満足度（「とても満足」「満足」）は以下の通りである。 体育大会：86.1%、高啼ウィーク：81.7%、球技大会：91.2%、ハートフル：94.1%</li> <li>ボランティア活動については、事後のアンケートを行わなかったため、数字として表すことはできないが、ボランティアの経験を通して、人とかかわり方を学んだり、人の役に立っているという充実感を感じたりしたようである。</li> </ul>	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育大会では、福島保育所の年長が参加したり、応援や競技で制約が少なくなったりと従来行っていた形に戻りつつある。高啼ウィークのステージ発表は、これまでの吹奏楽部、郷土芸能部、福祉コースの発表だけでなく、校風委員や保健委員のクイズや生徒会企画のクラス動画など、盛りだくさんの発表が行われた。球技大会は、全校生徒で行い、応援も自由に行うことができるようになった。</li> <li>ボランティア活動への参加は、18の活動に延べ190名であった。フォームで参加者を募ったことで、情報が伝わりやすく参加者が増えた。</li> <li>また、新聞編集委員を中心に、ホームページでの学校行事の発信を積極的に行った。これまで28記事を掲載した。（1月現在）</li> </ul>	
評 価	B	多くの行事で達成目標を超え、高い満足度を得られた。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒たちが、各行事に対して素直で一生懸命に取り組んでいる姿に感動した。また、いろいろなボランティア活動に取り組みながら、他者の幸せを願い、敬い、行動するという、すなわち福祉マインドを育む貴重な経験の機会を、学校の活動の中心的な役割としている点は非常に素晴らしいと思う。これらの取り組みが継続して発展していくことを願う。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事については、おおむね満足しているが、生徒会を中心に、生徒の意見を反映させて、新たな形のものを作り上げていきたい。ボランティア活動は、来年度はさらに多くの依頼があるものと予想される。生徒へのタブレットを利用した情報発信を行い、多くの生徒の参加を促していきたい。ホームページは、学校行事だけでなく、普段の学校生活の様子や部活動の様子なども載せ、八尾高校をPRしていきたい。</li> </ul>	

(評価の基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和5年度 アクションプラン		福祉コース		
重点項目	福祉コースの実践を生かした進路選択			
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉コースでは、進路実現に向けて福祉コースの学びを生かし、中学生に本校福祉コースの活動や方針を周知し、福祉を学ぶことに対する意識の高い生徒の入学希望者およびコース選択者数を増やす。</li> </ul>			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉コース選択者は素直でこころ優しく他を思いやる心を持っているが、日常生活体験・社会体験、勤労の理解が乏しく、またコミュニケーション能力が不足している生徒が多い。福祉コースでは、福祉・看護・幼児教育・障害児教育等についての実習や外部講師の講演等の体験的・協同的な活動を多く取り入れ、社会体験や勤労理解、コミュニケーション能力の伸長を図っている。</li> <li>昨年度の福祉コース選択者の進路実績は、福祉・医療・幼児教育系進学者の割合は57%であった。また、今年度3学年の福祉コースにおいては、19名中12名(63%)が福祉系の進路を希望している。</li> <li>昨年度の本校への推薦入試の受験者数は9名で、定員に満たなかった。本校福祉コースの魅力について、中学校に対する周知が不足しているものと考えられる。</li> </ul>			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>福祉コースの生徒において様々な入試形態を利用し、社会福祉系、保育・幼児教育系、看護系、特別支援系などの上級学校に進学する生徒の割合を65%以上とする。</li> <li>ホームページや中学校訪問、学校説明会を利用して、福祉コースの特色を中学校の先生方や生徒たちに周知する。</li> </ol>			
方 策	<ol style="list-style-type: none"> <li>専門科目の授業を通して、いろいろな職種の見学、体験を経験させる。現職のスペシャリストの人の話を聞く機会を多くする。</li> <li>福祉コースに関する情報の発信をホームページや福祉コースのリーフレットなどを活用して充実させる。中学校訪問や学校説明会では福祉コースでの活動や学習内容、進路実績などを広く伝え、本コースについての周知を図る。</li> </ol>			
達 成 度	<ol style="list-style-type: none"> <li>2月末現在、社会福祉系、保育・幼児教育系、看護系、特別支援系などの上級学校に進学することが決定している生徒数は9名(47%)である。</li> <li>中学校訪問や学校説明会では福祉コースでの活動や学習内容、進路実績などをリーフレットを用いて広く伝えた。福祉コースに関するHPの更新は今年度、コース授業担当者がこれまでに17回実施した。</li> </ol>			
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>専門科目の授業を通して、いろいろな専門職の講習を受講した。また、今年度は実習を実施することが可能となり、生徒に多くの体験を積ませることができた。</li> <li>学校説明会では、例年と同じく福祉コースの生徒が活動や学習内容を直接プレゼンテーションした。中学校訪問ではリーフレットを活用し福祉コースについて周知を図った。また、福祉コースに関するHPの更新も昨年度より多く実施できた。</li> </ol>			
評 価	(1)C	達成目標には届かなかったが、取り組みは評価できる。	(2)A	本コースの特色について情報発信の充実を図ることができた。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>八尾高校の福祉コースは、社会福祉の分野で活躍する若者を育成し、その価値は極めて貴重である。これまでの八尾園などとの連携やボランティア活動は、学校の福祉マインドの育成に成功している。今後さらに、社会福祉の理念を深く学び、現場を知ることが重要である。具体的には、地域の福祉事業所を巻き込んだ協議会の場を設けたり、既存団体との連携の強化、そしてPTAの積極的な支援など、学校と地域社会の連携を深めることが可能である。</li> </ul>			
次年度へ向けての課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>今年度同様、様々な取り組みを通して、福祉に関する職業や進路に興味関心を向けさせたい。</li> <li>HPの更新などを通して校内外に福祉コースの活動を発信していきたい。</li> </ol>			

(評価の基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)